

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	水海道市立水海道中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数 2 8
学級数	4	4	4	2	1 4	
生徒数	1 2 3	1 4 7	1 5 1	7	4 2 8	

研究の概要

1. 研究主題

「生きる力」を育てる学習指導方法の工夫改善
 - ひとりひとりに確かな学力をつけるための授業をめざして -
 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

第1・2学年 数学
 発展的な学習や補充的な学習を継続していくことで、基礎・基本を定着させ、生徒一人一人の学力を高めるため。
 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>テーマ 補充・発展的な学習としての「課題学習」を実践することで、生徒に数学の「楽しさ」を味わわせながら「数学的な見方や考え方」を育成する。</p> <p>研究の見通し 授業において、チーム・ティーチングや少人数指導を取り入れ、発展的・補充的な学習を意図した習熟度別の指導やグループ学習など学習形態の工夫や教材の開発をすることによってひとりひとりの実態に応じた指導ができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 生徒の意識調査により研究方針を策定する。 (2) 文献研究によって数学学習や課題学習に関する理論的な背景を明らかにする。 (3) 少人数授業やチーム・ティーチングによる「課題学習」を実践することで、生徒に数学の「楽しさ」を味わわせ、「数学的な見方や考え方」を育成する。</p>
--------------------	---

平成 15 年 度	<p>テーマ 少人数指導編成を取り入れた授業形態による、個に応じた指導方法を研究する。</p> <p>研究の見通し チーム・ティーチングおよび少人数学級による学習形態を工夫することで、効率的な指導が実現するであろう。 生徒が興味関心を持って取り組めるような授業展開の工夫をすることで、学ぶ意欲が向上するであろう。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 理論研究によって、数学学習における「基礎・基本」や「学力」のとらえ方を明らかにする。 (2) よりよいチーム・ティーチングおよび少人数指導の在り方を追求</p>
--------------------	--

- する。
- (3) 発展的な学習や補充的な学習の教材開発を行う。
- (4) 自己評価カードの有効的活用について研究する。

平成
16
年度

テーマ

確かな学力を育成するための数学学習の在り方を追求する。

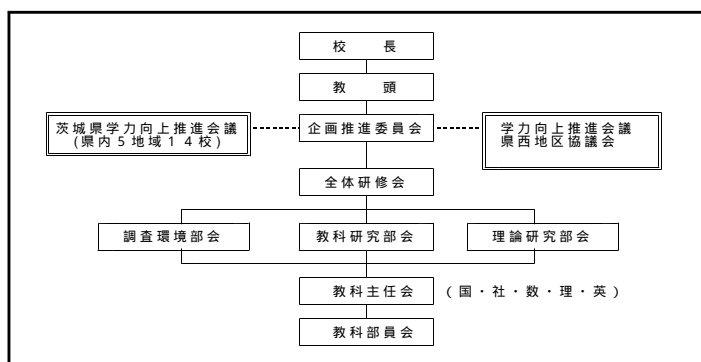
研究の見通し

3年間にわたる実践的研究を総括することで、「確かな学力を育成するための数学学習の在り方」が浮き彫りになるであろう。

研究の内容・方法

- (1) 理論研究の成果をまとめる。
- (2) ティーム・ティーチングおよび少人数数学級に関する成果をまとめる。
- (3) 「確かな学力を育成するための数学学習の在り方」に関する研究成果を総括する。

(3) 研究推進体制



企画推進委員会	校長	教頭	教務	副教務	研究主任	各研究部主任	学年主任
全体研修会	全職員						
調査環境部会	全職員を学年，教科等を考慮して3部会に割り振る						
教科研究部会							
理論研究部会							
教科主任会	国社数理英の5教科の主任で構成						
教科部員会	5教科の教科部員で構成						

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 少人数やティーム・ティーチングなど極め細やかな指導を継続してきたことで、生徒たちが授業により意欲的に取り組むようになった。また、生徒からも『先生に質問しやすいのでよく分かる、自分のレベルにあった問題に挑戦できるので楽しい』などという声があがっている。
- (2) 補充的な学習や補充的な助言を継続してきたことで、『数学ができるようになった、少し分かるようになった』と答える生徒が増加した。
- (3) 自己評価カードに学習課題の達成度を表記することで、どこでつまづいているのか把握しやすくなり、生徒一人一人にあった指導ができるようになった。また、生徒からも『弱点がすぐわかるので復習に役立つ』などという声があがった。

2. 今後の課題

- (1) 発展的な学習や補充的な学習の更なる教材開発・指導法について研究する。また、普段の授業においても、発展的な発問や補充的な助言をしていくことの必要性を感じた。
- (2) 少人数指導などで自分にあったコースを選択できるように教師の適切な指導助言が必要である。

学力等把握のための学校としての取組

茨城県「学力診断のためのテスト」の実施（年1回実施）およびその結果の分析と考察（国・社・数・理・英）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

茨城県学力向上推進協議会での研究成果の報告
授業公開（5教科）及び研究成果の報告（平成15年12月3日実施）
平成14・15年度の研究の概要の作成

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無